

附録腹候図

東洞先生門に教るに、腹候を以て先とし次に外候を参考して其方を処せしむ。

夫れ病の本有るは猶草木の根有るがごとき也。

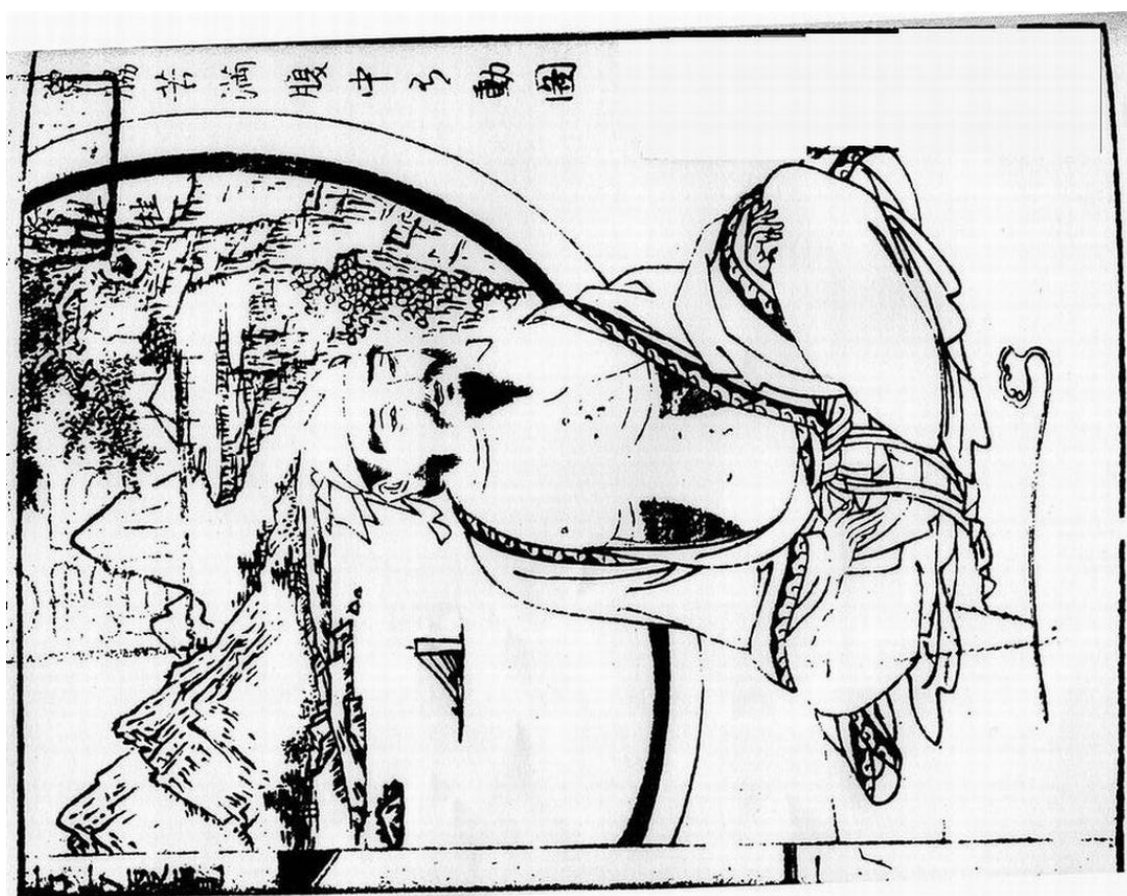
葉去りて根を去らざるに草木猶在るがごとき也。故に腹を診視して病毒の所在を

審つまひらにし、薬石を以て之を攻るときは則ち疾として愈えざることなし。

譬たとば此に病者ありて外證は異なれども腹證ひし同き寸は同方を処す。又外證同じとい

えども腹證異なる寸は処方を異にす。千態萬状唯腹候たを準據として治を施す。故に腹候に明らかならずして疾病を治せんことを求るは、猶規矩繩墨を廢して方圓曲直を成すごとき也。其の能わざるや必せり。

今先師の遺法のを述べて此図を著す。其の機變た遍妙用惟之を習い、熟に至り、自ずから當に心手相應すべし。図を案じて験を求むることなかれと云う。





胸脇
苦満圖



心下
痞硬圖



腹皮起
如有
頭足兩



膏脇大滿

心六痞鞭圖



腹堅滿圖



肌膚枯

燥有燥屎

圖



結胸圖



自心下至

小腹鞭滿圖



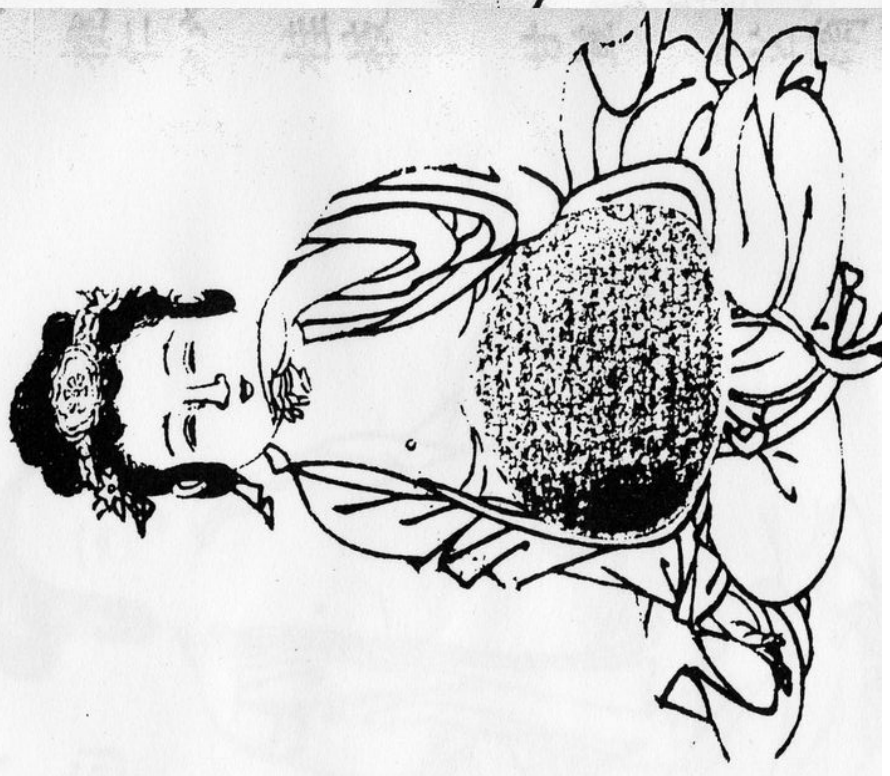
小腹

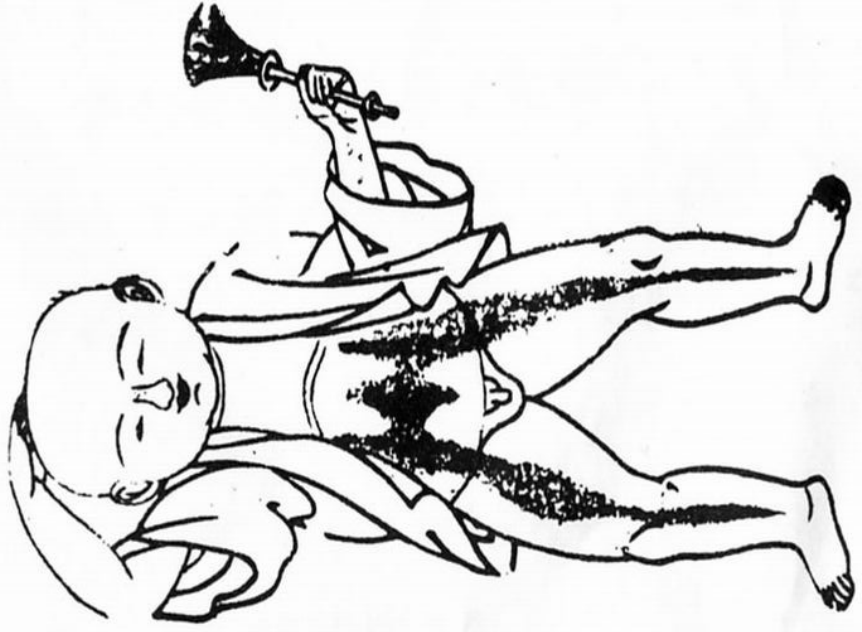
急結圖



腹瀉

女狀圖





腹味及脚

掌急回

